

JADA

全国自動ドア協会

124

Jan. 2026

JADA 会報

Japan Automatic Door Association

特集

業界誌記者懇談会



世界遺産：(京都)下鴨神社

JADA

Cover Story

JAN 2026 NO.124



千年の森に息づく古社の神聖な佇まい

京都市左京区に鎮座する下鴨神社(正式名称：賀茂御祖神社)は、京都最古級の神社として知られ、上賀茂神社とともに賀茂氏の氏神を祀る古社。境内は太古から続く森林“糺すの森”に囲まれ、四季折々に移ろう自然と社殿が美しく調和している。平安京遷都以前から重要な祭祀の場として敬われ、現存する社殿の多くは江戸時代の造営ながら、古式ゆかしい建築様式を今に伝える。

1994年には「古都京都の文化財」の一部として世界遺産に登録され、流鏝馬や御手洗祭などの伝統行事は、今も多くの人々を魅了している。

画：杉井洋一

Contents

2026年 新年を迎えるにあたり	3
賀詞交歓会	4
特集●2025年(令和7年)度 業界誌記者懇談会	
自動ドア生産台数の推移	5
事業活動報告	6
質疑応答	7
HOTLINE	8
サンパウロの自動ドア	9
2025年度 JADA 研修会レポート	10
物語の中の自動ドア	12
JADA PROFILE●扶桑電機工業株式会社	13
JADA Archive	13
賛助会員のページ●株式会社オブテックス	14
事務局から	15
私の故郷	16
2025年度スケジュール	16

2026年 新年を迎えるにあたり

全国自動ドア協会会長 内田 正則

2026年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。旧年中は当協会の事業に格別なご支援を賜り、誠にありがとうございました。本年も引き続き宜しく願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、世界的にはトランプ政権2期目の関税政策が世界に衝撃を与え、また、ウクライナや中東の紛争も漸く終息方向への動きが出てまいりました。国内では政治面では初の女性首相・高市内閣の誕生、そして、公明党の連立政権離脱に新たな自民党と日本維新の会の連立樹立という大きな動きがありました。その他、コメ価格高騰、そして、東日本エリアでは熊による被害が連日のように発生し、大きな社会問題となりましたが、関連して熊出没地の「自動ドア」が連日メディアに登場

したことも印象的でした。経済面ではオーバーツーリズム問題と表裏一体ではあるものの継続的なインバウンド需要、円安問題、私たち庶民には実感のない日経株価高値更新が話題となりましたが、高市新首相の政策により今後の変動も予測されます。いずれにしましても、今年も米国関税影響の一服、賃上げ機運の継続による個人消費の増大により、好景気で推移することを望みます。

この様な情勢下、我々が属する建設業界、そして自動ドア業界においては、原材料費等の高騰はやや緩やかになったものの、慢性化した人手不足と自動ドア需要の一極集中傾向は更に厳しくなったと感じざるを得ません。しかし、それでもお客様のご要望には着実にお応えして行かなくてはなりません。

伴い、当協会は「JIS A 4722 歩行者用自動ドアセットー安全性」の制定以来、「JIS 準拠：安全ガイドブック」の発行、「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」を通じたステークホルダーの皆様への自動ドアセットとしての安全性確保に

対する理解と普及、施工技能士の知識向上、JIS 啓蒙活動・市場進捗調査を行ってまいりました。これらの活動を通じて、自動ドアによる事故を撲滅するため、利便性を落とすことなく、安全性の向上に取り組み続け、社会インフラに貢献して行くことが協会の存在価値であると捉えております。

今年の干支は、^{じっかんじゅうにし}十干十二支の中^{ひのえうま}60年に一度の「丙午」です。「丙」は陽の「火」を表し、太陽の明るさから情熱、強い意志を意味し、「午」は陽の「馬」を表し、行動力やスピード・エネルギーを意味します。多々縁起の悪い年との迷信・言い伝えもありますがポジティブにとらえ、「勢いエネルギーに満ちた、活動的に道を切り開く」年となることを期待するとともに、当協会も「安全・安心・快適」の提供と自動ドアの健全な普及に、より活動的に取り組んでまいり所存でございますので、今後とも倍旧のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、本年が会員各位の益々のご健勝と発展の年となることを祈念し、新年のご挨拶に代えさせていただきます。



2026年

賀詞交歓会

2026年1月16日、東京・アジュール竹芝において全国自動ドア協会の新春賀詞交歓会が開催されました。内田会長のご挨拶、吉田総務部会長による乾杯の発声後、立食形式の懇談に入り、各所で新年の挨拶が交わされました。後半は、恒例の福当て抽選が行われ、盛況の中での閉宴となりました。



内田会長



花房副会長

今年の会長賞&副会長賞は、**オプテックス株がダブル受賞!**



副会長賞：オプテックス株 辻氏[左]、会長賞：オプテックス株 竹田氏[右]
オプテックス株 取締役 執行役員 御影池氏[中央]



閉宴の挨拶 花房副会長

本日はご多忙の中、賀詞交歓会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

昨年度、JADA では安全啓蒙活動を進めてまいりました。本年度は、自動ドア装置の性能規格の制定、ならびに自動ドア開閉装置の試験方法である「JIS A 1551」の策定を進めていく予定でございます。これらはいずれも社会インフラにとって不可欠で、自動ドアのさらなる社会的地位向上を目指す取り組みとなります。

我々を取り巻く環境は、人手不足、働き方改革、資材高騰、そして急激な DX 化の波など、非常にドラステックな変化が生じております。こうした変化に対応しつつ、自動ドアをより便利に、そしてより安全なものとするため、当協会では規格およびガイドライン

の制定、安全啓蒙活動、施工技能の向上、さらには広報活動に全力で取り組んでまいります。

今後とも皆様方のご協力とご尽力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



賛助会員による説明会

賀詞交歓会と同日に賛助会員による「商品説明会」も開催されました。各社から動画やプレゼン資料により説明が実施され、賀詞交歓会でも商品詳細などについて積極的な情報交換が実施されました。



二〇二五年（令和七年）度
業界誌記者懇談会

昨年十一月二十七日、ビジョンセンター浜松町において、業界誌記者懇談会が行われました。工期の遅延や物価高騰、人手不足などの市場環境をはじめ、生産台数の動向や新たな課題について活発な意見交換が行われました。

全国自動ドア協会の現況 (2025年度上半期を終えて)

1 自動ドアの需要動向

2025年度上半期の自動ドア生産台数の実績と通期見込み台数

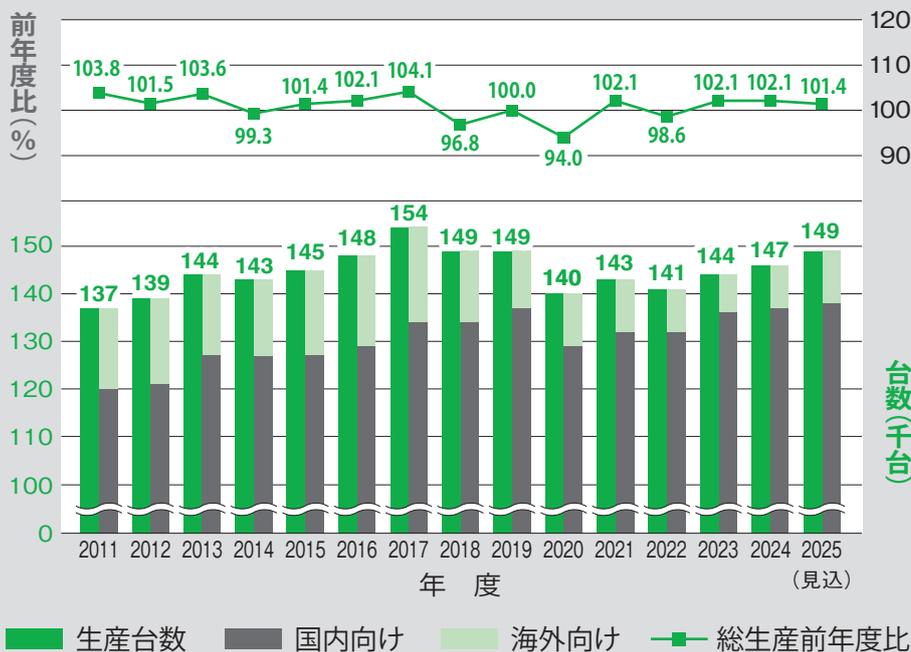
- ・国内向け台数 上半期実績 61千台 (前年度比 92.0%)、通期 138千台 /年 (前年度比100.7%見込)
- ・海外向け台数 上半期実績 5千台 (前年度比106.4%)、通期 11千台 /年 (前年度比122.2%見込)
- ・総生産台数 上半期実績 66千台 (前年度比 93.0%)、通期 149千台 /年 (前年度比101.4%見込)

2025年度生産台数見通しを中心とした業界情勢

2025年度年間生産台数見通しは、国内向け138千台、海外向け11千台、総生産台数149千台といたしました。

国内市場向けは、2030年頃までは首都圏を中心とした大型再開発案件が活況と見込まれており、国内への生産回帰や物流倉庫の建設が進み、工場案件が増加。衛生面・セキュリティ強化等による手動から自動ドア化の需要も引き続き堅調ではありますが資材価格や人件費の高騰などにより現場工期の遅延や規模縮小などの影響が徐々に始まっています。

2011年度から2025年度までの生産台数推移



2025年度 予想・見込	総生産	前年度比	国内向け	前年度比	海外向け	前年度比
5月予想 ¹⁾	151千台	102.7%	140千台	102.2%	11千台	122.2%
10月見込 ²⁾	149千台	101.4%	138千台	100.7%	11千台	122.2%

1) : 2025年度初め(5月)の予想値
2) : 半期経過後(10月)の見直し値

※年度は4月～3月

事業活動報告



2 自動ドア施工技能士の現状

厚生労働省認定国家資格「自動ドア施工技能士」の2024年度技能検定では、253名が受検し184名が合格という結果になり、自動ドア施工技能士の全国累計合格者数は1級 4,174名、2級 4,175名、合計8,349名となりました。本年度の検定に臨む受検者の総数は266名となり、検定の結果は2026年の春に発表されます。

●自動ドア施工技能検定受検者数と合格者数

年度	1級技能士	2級技能士	合計
2024年度 検定受検者	117人	136人	253人
2024年度 検定合格者	90人	94人	184人
2025年度 受検申請者	152人	114人	266人

自動ドアの設置現場でその品質と性能をしっかりと仕上げることのできる技能者は、その技能を駆使して、自動ドアの安全性向上、快適性能の維持に貢献、施主・建物管理者の皆様の満足度を高め、自動ドアを利用する通行者の皆様の信頼を頂くうえで大変重要な役割を担っています。

3 技術基準等の改定活動

自動ドア開閉装置の性能規格（JIS規格）の新たな制定、及び自動ドア開閉装置の試験方法（JIS A 1551）の改正に向けて活動しております。原案の作成を完了し、2026年の制定、改正に向け、各方面で審議などとして頂いております。



4 自動ドアの安全に関する取り組み

通行者への安全啓発資料「自動ドアの安全な通り方」「自動ドアを正しくご利用いただくために」をより分かりやすく改訂いたしました。また「歩行者用自動ドアセット（引き戸）安全ガイドブック」についても見直しを実施し、改訂版の頒布を完了しています。

5 その他

実務知識研修会開催

2025年9月25日に全国から約90名の方に参加していただき、アジュール竹芝にて「実務知識研修会」を開催しました。全国自動ドア協会会員各社の経営者、営業、技術、保守、サービス、総務人事など各職種の方々が参加され、以下のテーマについて学びました。

第1部 「人が辞めない職場を作る究極のリーダーシップ」についての講演

講師：大垣 雅則氏

第2部 「言葉が変われば組織が変わる！やる気を引き出す魔法の言葉『ペップトーク』とは」についての講演

講師：岩崎 由純氏



熱心に取材する記者の方々

事業活動報告終了後、質疑応答が行われました。記者の方々の質問に対して、理事が回答しました。

Q 2025年上半期の生産台数が減少した原因は、工期の延期が主因という理解でよろしいでしょうか。また、下半期が前年を上回っている理由については、首都圏の大型案件が背景としてあるのでしょうか？



ガラス新聞社
福井氏



内田会長

A 想定以上に工期・着工の遅れが発生しており、その影響が上半期の数字として表れました。下半期は、その遅れ分の着工がようやく現場として動き始めると見込んでいます。工場以外では、物流倉庫が高速道路インターチェンジ付近に新設されるケースも多く見受けられました。ただし、いずれも工期がずれ込んでおり、建築内容の見直しも相次いでいます。結果として、2028年～2030年、もしかすると2035年頃まで遅れが積み上がった状態で推移していくのではないかと予測しています。

Q 開き戸の自動ドア化が増えていると聞きましたが、全体の割合としては何%くらいでしょうか？

A まだ、1%もないでしょう。昨今の人手不足で、製造業からサービス業まで幅広い分野で、ロボットの導入が進んでいます。ロボットが手動の扉を開くのは難しいので、開き戸の自動ドア化の需要には、これから期待したいと思っています。
(内田会長)



時報社 水戸氏

Q 日本は深刻な人手不足が続いており、その解消と経営強化のために外国人材の活用が急速に進んでいます。自動ドア業界では、どの程度外国人材の活用が普及していますか？



サッタイムス
山根氏

A 自動ドア業界でも、他業界と同じように人手不足が続いています。「受注しても、工事・点検に回す人員の確保に苦勞している」と会員の皆様から聞いています。外国人材の活用は、JADA 全体としては足踏み状態ですが、会員各社の中では活躍している方もいらっしゃるようです。外国人の方は非常に良く働いてくれますが、技能実習生は3～5年で帰国しなければならないため、せっかく仕事を覚えてもらった頃に離職することになり、恒常的な人手不足の解消にはつながりません。
(内田会長)

Q 現在、年間85,000棟ほど新築物件が建設されていると言われていきます。今は建物に自動ドアをつけないケースは、ほとんどないと思います。再開発事業や病院の建設などを考慮すると、今後はさらに需要増も見込めるのでしょうか？



ミルト出版
堤氏

A 都市部の大型ビルの自動ドアの需要は100台単位でありますが、「地方では物件ひとつに自動ドアが1、2台」というのも会員各社からよく聞く話です。工場や流通センター等は、たしかに敷地は広いのですが、自動ドアの設置台数はそれほど多くありません。残念ながら、全国的に需要の偏りが大きく、首都圏一極集中の状況は変わっていません。
(内田会長)

Q 自動ドアの事故の傾向についてお伺いします。JIS規格の制定以降、事故は減少しているとお聞きしましたが、最近の発生状況や新たに見られる傾向はありますか？

(ガラス新聞社 福井氏)

A 新たに見られる傾向としては、シニアカー(電動カート)による接触が挙げられます。シニアカーは時速6km以下という制限がありますが、車イスや歩行者に比べて通行スピードが速いため、自動ドアの開閉タイミングが合わない場合があります。自動ドアを「より速く開ける」設定にすると、通常の通行や冷暖房効率と相反するため調整が困難です。

最近では、スマートフォンを見ながら通行する人も増えていきますし、課題は多いです。



田中事務局長



総務部会
より

総務部会合同会議を出雲で開催



2025年10月16日、全国自動ドア協会の総務部会合同会議（企画委員会・安全委員会・広報委員会）が島根県出雲市の「ビッグハート出雲」にて開催されました。

企画委員会からは、2025年度上半期の自動ドア生産実績と年間見通しについて報告があり、上半期は海外向けの生産が好調となりました。年間では国内向け138千台、海外向け11千台と見込まれています。

安全委員会からは、自動ドア事故情報の分析結果が報告されました。「2025年問題」と呼ばれる国民の約5人に1人が75歳以上の後期高齢者となる“超高齢化社会”を迎えており、近年は電動車いす・シニアカーによる事故が増えているといった傾向が共有され、改めて定期点検と設置時の安全確認の徹底が重要であると言及されました。また、JIS適合駆動装置の普及についても議論が交わされました。

広報委員会からは、協会ホームページや会報を通じた安全啓発の方針が示され、活発な意見交換ののち閉会しました。会議後は合同の懇親会が行われ、各委員間の情報共有と交流が一層深まりました。

安全委員会
より

「通行者のための安全ガイド」を全面改訂

全国自動ドア協会では、1999年に初版を発行した「通行者のための安全ガイド」を、2025年10月に全面改訂しました。

初版から25年以上が経過し、環境や利用者の意識も大きく変化していることなどから、内容・デザインの刷新を行いました。



これまでの2色刷りからフルカラーへ一新。従来の7つの安全ポイントを分かりやすく整理し、図解やイラストがより見やすくなりました。また、スマートフォンの使用など利用環境の変化にも対応しています。

当協会では「通行者のための安全ガイド」を通じて、ユーザーの安全意識を高め、自動ドア事故の未然防止に今後も努めてまいります。

海外通信

サンパウロの自動ドア

自動ドアが普及しない理由とは？

ブラジルの人件費と“ドアマン”文化

ブラジル最大の都市サンパウロは、ブラジル経済の中心となっている活気ある都市で、その人口は世界でも有数の多さです。高層ビルが立ち並び、ショッピングモールやオフィスビルが密集するこの都市では、先進的なインフラが整っているように見えます。しかし、日本や欧米の都市と比べると、自動ドアの普及率は低いのが実情です。

その背景には、ブラジル特有の“ドアマン文化”と人件費の構造があります。ブラジルでは最低賃金が比較的安く、建物の出入口に専任のスタッフを配置することが一般的です。特にサンパウロの高級ホテルやオフィスビルでは、来訪者を温かく迎える“ドアマン”が常駐しており、彼らが建物の“顔”として重要な役割を担っています。そのため、機械に置き換えるよりも、人によるサービスの方が自然であり、コスト面でも合理的と考えられているのです。

また、ブラジル社会では対面での交流を重んじる文化が根付いています。挨拶や会話を通じて人間関係を築くことが日常的であり、店舗やビルの入り口でスタッフが来客を迎えることが、サービスの一環として重視されています。自動ドアが利便性をもたらす一方で「人が開けてくれる」こと自体が歓迎や安心感を生む行為とされているのです。

治安とセキュリティが左右するエントランス

サンパウロを含むブラジルの都市部では、治安の問題も自動ドアの普及を妨げる一因となっています。強盗や侵入などの犯罪防止の観点から、あえて自動ドアを設置しない店舗も少なくありません。特に宝石店や高級ブランド店などでは、セキュリティ強化のためにドアマンを配置し、出入口の開閉を人の判断で行うことで、安全を確保しています。

もちろん、空港や大型ショッピングセンターなど、人の出入りが多く効率が求められる施設では、ブラジルでも自動ドアの導入が進んでいます。ただし、街全体としては依然として手動ドアが主流であり、自動ドアはまだ特定の用途に限られています。

今後、都市の近代化や人件費の上昇が進めば、サンパウロでも自動ドアの需要が少しずつ高まっていく可能性があるでしょう。現時点では、治安面や文化的背景を踏まえた“人の手によるおもてなし”が、サンパウロの街並みにしっかりと馴染んでいるようです。



サンパウロのシンボル、オクタヴィオ・フリーアス・デ・オリヴェイラ橋



飲食店の自動ドアは、開け放しが多い。



押しボタン式自動ドア(ホテルの食堂)

サンパウロ
クリティバ
リオデジャネイロ



サンパウロ市：グアルーリオス国際空港の自動ドア

2025年度 JADA研修会レポート

開催日 2025年9月25日 日

会場 アジュール竹芝

主催 ● 全国自動ドア協会 企画委員会

2025年9月25日、東京のアジュール竹芝において、企画委員会主催の研修会が行われました。

第1部では、大垣氏が自身の経営経験と豊富な事例を交えながら「人が辞めない職場を作る究極のリーダーシップ」について解説しました。第2部では、岩崎氏が言葉の力に焦点を当て、短く前向きな言葉で相手のやる気を引き出す“ペップトーク”の実践法を紹介しました。現代の若者や部下とのコミュニケーションに悩むリーダー層にとって、具体的なヒントとなる内容でした。

第1部 3年間離職者ゼロ！

「人が辞めない職場を作る究極のリーダーシップ」

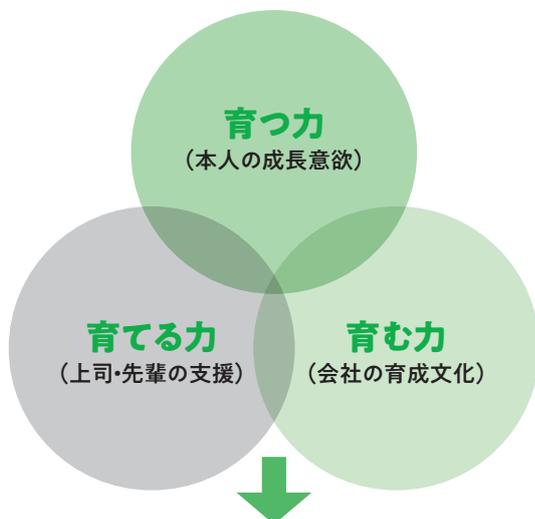
講師：大垣 雅則 氏（リーダー実践力育成「大垣塾」塾長）



人材育成の三つの力とメンター制度の効果

大垣氏はまず「職場は人材育成の道場である」と強調しました。人材が育つには、本人の**成長意欲（育つ力）**、上司や先輩の**支援力（育てる力）**、そして会社全体の**育成文化（育む力）**の三つが不可欠であり、そのいずれかが欠ければ人材育成は滞ると指摘します。具体策として紹介されたのが“メンター制度”です。新人に対して2～3年目の先輩社員をつけることで、日常的な相談相手を確認し孤立を防ぐ仕組みは、離職率の低下に大きな効果を発揮します。またメンター役を担う先輩社員にとっても、コーチングや傾聴力を学ぶ機会となり、中堅層や次世代リーダーの育成にもつながる点が強調されました。鉄道会社やクレジット会社での具体的成功事例も紹介され、制度の有効性が裏付けられました。

■人材育成に必要な3つの力



どれかが欠けると、人材育成は滞る

リーダーシップに求められる「聞く力」

大垣氏は「人が辞めない職場をつくるためのリーダーシップ」として傾聴力、特に**傾聴質問力**の重要性を説きました。一方通行の指示型リーダーシップではなく、部下の意見を聞き、意思決定に反映させるスタイルが信頼と意欲を引き出すと強調します。部下がやる気を失う最大の要因は「話を聞いてもらえないこと」であり、上司が率先して耳を傾ける姿勢が組織全体の活性化を生み出します。さらにコーチングを学び、判断レベルで部下の意見を取り入れることが、自律的な成長を支援する上で欠かせない要素とされました。



心理的安全性と組織活性化の実践例

最後に紹介されたのが「**心理的安全性**」の確保です。Googleの研究でも最重要要素とされたこの概念は、単なる仲良しグループではなく、健全な議論や建設的な衝突が許される環境を意味します。そのための具体策として、ランチ会や自己開示ミーティング、朝の雑談、会議冒頭のチェックインなど、日常的に発言しやすい仕組みづくりが挙げられました。これらの取り組みは新人の定着だけでなく、多様性を尊重する職場文化の醸成にもつながります。大垣氏は「人材が辞めない職場は、単に待遇や条件ではなく、**信頼と安心感を生み出す日々のコミュニケーション**にかかっている」と結びました。

第2部 言葉を変えれば組織が変わる!



「やる気を引き出す魔法の言葉“ペップトーク”」

講師：岩崎 由純 氏 (スポーツジャーナリスト/日本ペップトーク普及協会 代表理事)

ペップトークの定義とスポーツでの実践例

岩崎氏は、自身のスポーツトレーナーとしての豊富な経験を背景に、ペップトークを**相手の可能性を信じ、短く肯定的な言葉で背中を押すコミュニケーション技法**と定義しました。ラグビー日本代表や野球の国際大会での成功事例が示すように、試合前のわずかな言葉が選手の集中力と士気を大きく変えると語ります。ペップトークはスポーツに限らず、ビジネスや教育、家庭などあらゆる場面で有効であり、指導者や上司にこそ求められるスキルだと強調しました。



言葉の持つ影響力と現代社会の課題

続いて岩崎氏は、パワハラやマイクロアグレッション(無意識の差別的発言)の問題を取り上げました。言葉は相手の心に深く作用し、**ネガティブな言葉**は相手の「自分ならやり遂げられる」という自信を低下させ、組織の雰囲気を変悪化させると警鐘を鳴らします。一方で、肯定的な言葉が相手の心理状態を最適化し、挑戦する意欲を引き出すことは心理学的にも証明されています。特に現代の若者は**命令型よりも説明や納得を重視**する傾向が強く、言葉選びの重要性はますます高まっていると指摘しました。

ペップトークがもたらす組織変革

「言葉は組織文化を映す鏡であり、日々の会話の積み重ねが職場の雰囲気や行動様式を形づくる」と岩崎氏は指摘しています。小さな場面でも「ありがとう」「助かった」「大丈夫、一緒にやろう」といった前向きな言葉が飛び交うことで、心理的安全性が高まり、挑戦や失敗を恐れない風土が育まれます。こうした環境では、部下が自発的に意見を出し、上司も柔軟に受け止める**“双方向の信頼関係”**が生まれます。

岩崎氏は「ペップトークは単なるスピーチ技法ではなく、組織の価値観そのものを前向きに変える言葉の文化運動であり、一人ひとりの言葉が、チームの未来を創る」と力強く語りました。

ペップトークを日常的に取り入れることで「完璧主義」ではなく「最善主義」へ意識を転換してみましょう。例えば「失敗するな」ではなく「思い切って挑戦してみよう」と声をかけることで、相手の緊張を和らげ、実力を最大限に発揮させることが可能になるのです。

ペップトークの特徴は、**短く、分かりやすく、肯定的**であること。組織内でこの習慣を浸透させれば、リーダーと部下の関係はより対等で信頼に満ちたものとなり、結果的に組織全体の成長を促す、と岩崎氏は結びました。

言葉は相手の心に深く作用する

ネガティブな言葉

- 自信の低下
- 組織の雰囲気が悪化

ポジティブな言葉

- 心理状態の最適化
- 挑戦意欲を引き出す



若者は命令よりも【説明】【納得】を重視



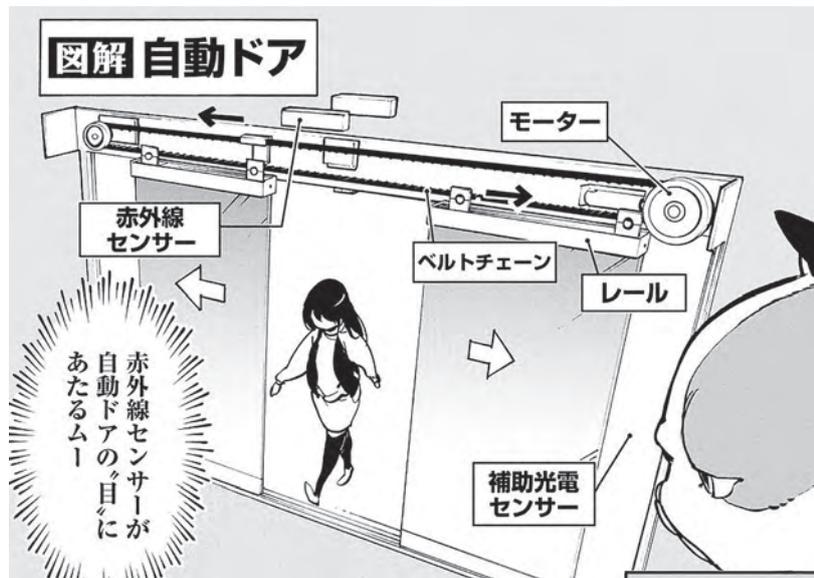
物語の中の自動ドア

第17回

宇宙人ムームー 漫画、2019～



●宇宙人ムームー／宮下裕樹 著
少年画報社より、既刊9巻まで発売中
(2026年1月現在)。



© 宮下裕樹／少年画報社

座長のムームー

自動ドアの1本のベルトの上下に左右のドアを別々に固定するの考えた技術者は天才!

遠い宇宙から地球にやってきた猫型異星人・ムームー。母星が失ったテクノロジーを取り戻すために地球の工学技術を学ぼうと飛行していたところ、東京都町田市に暮らす大学生・梅屋敷桜子のアパートに宇宙船ごと衝突してしまい、成り行きで二人の同居生活が始まる。ムームーの「テクノロジー再生計画」に翻弄されながら、桜子の大学生生活は思いがけず賑やかなものとなっていく。

漫画『宇宙人ムームー』（宮下裕樹著）は、『ヤングキングアワーズ』（少年画報社）にて2019年から連載中の人気作品です。母星の文明を復興するために地球のテクノロジーを学ぶというユニークな設定で、電子レンジや冷蔵庫など身近な技術と、大学生の日常、SFが交差します。2025年4月からTVアニメとしても楽しまれています。第3話「ムームーと自動ドア」では、4コマに渡って自動



ドアの仕組みが図解されます。猫の姿をしたムームーたちでは赤外線センサーが上手く感知しない、というシーンが笑いを誘います。

本作の魅力のひとつは、工学技術の解説と、キャラクターの体験や人間関係が重なり合う点です。たとえば、電子レンジによる加熱の原理として解説される“摩擦熱”が、家族が手を擦って温めてくれた桜子の思い出と重なったり、「頭を冷やせ」と水をかけられる様子が、冷蔵庫の原理である“気化熱”の理解に繋がったりします。

また、桜子の声が小さいというコンプレックスに対してムームーが「地球人は耳が悪すぎ」とあっけらかんと返すシーンは、図らずも彼女への励ましとなって読者の胸に温かさを残します。単なる豆知識やギャグにとどまらず、科学がキャラクターの日常や成長に自然に溶け込んでいく、不思議な魅力のある作品です。

dream ドリーム自動ドア 扶桑電機工業株式会社

弊社は、1932年(昭和7年)の創業以来、「つねに時代のニーズに対応できる製品を提供する」というモットーのもと、90年を超える長きにわたり、日本の「ものづくり」を支えてきたメーカーです。

【技術革新を牽引した沿革】

弊社のルーツは創業時の電球製造販売にあり、1961年に自動ドア業界に進出しました。以来、技術探求を続け、1982年には日本初の画期的な「パニックシステム」を開発(消防庁長官賞受賞)。するなど、業界のパイオニアとしての地位を確立しました。また、1993年にはNHKと共同で防音ドアを開発するなど、特殊分野での実績も豊富です。

【総合体制と強み】

最大の強みは、開発・設計から製造、販売、施工、メンテナンスまでを一貫して手がける「製販一体」の総合体制です。

このワンストップサービスにより、お客様の細かな要望に応じたオーダーメイド製品や、特殊な現場の課題解決に柔軟に対応しています。豊富な知識を持つ自動ドア施工技能士による高品質なサービス体制も、長年の信頼を支える礎です。

【社会インフラとしての役割】

提供製品は、一般ビルから、高い信頼性が求められる鉄道車両用、病院、工場まで多岐にわたり、社会インフラとしての自動ドアの安全と快適性を担っています。「安全・安心」と「快適」を追求する理念のもと、弊社は今後も技術力とサービスの拡充に努め、自動ドア業界の発展に貢献してまいります。

〒140-8676 東京都品川区南品川6丁目3番10号
URL : <https://www.fusodenki.co.jp>



本社



ショールーム

会社概要

代表者	佐野健二郎
設立	1932年
事業内容	自動ドア及び関連装置の開発・製造並びに販売



いまから四半世紀前の1999年7月、全国自動ドア協会は「通行者のための安全ガイド」を発行しました。当時の自動ドア利用者は、高齢化やバリアフリー化の進展により、より多様なケースが見られ始めた時期でした。初版ガイドには、基本的な危険要因の整理と利用者に向けたシンプルで分かりやすい注意喚起が盛り込まれており、安全啓発の原点と言える内容でした。

それから25年を経た2025年、「通行者のための安全ガイド」は全面改訂を迎えました。JIS規格の制定やセンサー技術の進化、さらにはシニアカーの普及など、自動ドアの利用環境は時代とともに進化し続けています。

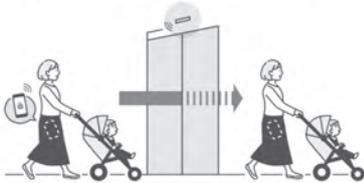


会報 第65号(1999年7月発行)より

全く新しい、情報発信プラットフォーム

OMNICITY®

ハンズフリー通行



見守り



OMNICITY対応
スマートエントランス
センサー



オプテックスの多彩なラインアップをご紹介

車両検知センサー
OVS-02GT



ViiK Gate II

ループコイルからの
置き換えに！

タッチスイッチ
OW-503CAN(R)



バリアフリー
インバウンド）に対応！
ムダ開き削減
新機能：アシストモード

脱着式止水板
フラッドセーフライト



気候変動による
自然災害に備えて
自動ドア+αの提案を！

e スムースセンサー
VVS-1



ECO・省エネ
×
バリアフリー



非接触スイッチ
Clean Wave

意匠性・施工性
×
耐環境性能



オプテックスのセンシング技術で、暮らしに「安全」「安心」「快適」、そして「感動」を。

本社 滋賀県大津市雄琴 5-8-12
東京支店 東京都港区海岸 1-9-1 浜離宮インターシティ 3F

TEL. 0800-888-8700
TEL. 0800-888-8700

事務局から

● 被表彰者

2025年11月、永年にわたり技能検定の推進に尽力されたことに対して、大阪府知事、大阪府職業能力開発協会、東京都知事からそれぞれ感謝状が贈られました。

また、2024年度(令和6年度)の技能検定試験合格者の中で、特に優秀な成績をおさめた方が大阪府知事、大阪府職業能力開発協会、東京都知事より表彰されました。

功労者



寺岡オートドア(株)
小池 誠
大阪府知事より



ナブコドア(株)
高谷 孝二
大阪府知事より



ナブコシステム(株)
松丸 直規
大阪府知事より



ナブコドア(株)
西谷 亨一
大阪府職能協より



扶桑電機工業(株)
古川 修子
東京都知事より

成績優秀者



ハシダ技研工業(株)
中本 剛揮
2級技能士
大阪府知事より



三和シャッター工業(株)
向井 風和人
1級技能士
大阪府職能協より



扶桑電機工業(株)
三浦 真哉
2級技能士
大阪府職能協より

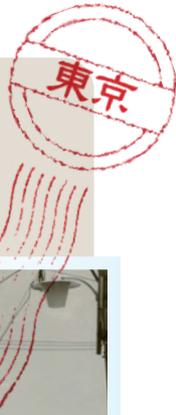


扶桑電機工業(株)
相原 萌子
2級技能士
東京都知事より

編集後記



不安定な世界情勢や国内の政局不安、自然災害など年始から何かと騒がしい状況が続いておりますが、2026年が皆さまにとって実りある1年でありますように。本年もどうぞよろしくお願いいたします。(T.T)



私は東京都大田区鵜の木で育ちました。近くの多摩川に行って土手に立つと、広々とした河川敷から富士山まで見渡せました。小中学校までは地元の区立学校に徒歩で通学しました。下校の途中、切削加工の鉄屑が積まれた町工場の脇を通ったり、鬱蒼とした森の中の広大な屋敷に忍び込んだり、お寺の境内、お墓、池など寄り道して歩いたことをよく憶えています。

当時は舗装されていない道もあり、雨が降ると水たまりや泥濘ができたものでした。用水路は、工場排水の油であやしく虹色に濁っていました。その後、町工場の移転、廃業などで、今では静かな住宅地になっています。



1974年(昭和49年)頃の
大田区 鵜の木

全国自動ドア協会 2025年度スケジュール (2025年4月~2026年3月)

	2025年										2026年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総会等			11日 定期総会			25日 研修会					16日 賀詞交歓会		
幹部会		21日			25日			13日			5日		
理事会		27日				11日		27日			19日		
企画委員会	25日			16日			16日			16日			
安全委員会	23日			30日			16日			22日			
広報委員会	22日			8日			16日		19日				
技術部会		15日											
技術基準委員会	18日		19日	17日		18日	15日	12日	12日				
技能開発委員会					29日							27日	
技能開発作業部会		9日	13日	11日	8日	12日	7日		2日		27日		

JADA
全国自動ドア協会

〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18
TEL 03-3436-3287 FAX 03-5473-9576
Eメール: jadainfo@pastel.ocn.ne.jp
URL: http://jada-info.jp

全国自動ドア協会 (Japan Automatic Door Association) は、1974年4月に発足。自動ドアの製造およびその販売会社で構成され、社会に快適で安全な自動ドアを提供することを目的とした民間の団体です。

発行責任者: 広報委員長 吉田 毅
編集・制作: (株)グループ・ティー
発行月: 令和8年1月

本誌の内容は、JADAのHPでも閲覧いただけます(発行日より約2年間)

